

平成 28 年度 市立湖西病院改革プラン策定委員会 議事録【概要】

開催日時 平成 28 年 7 月 21 日（木）13：30～

開催場所 市立湖西病院 2 階研究室

出席者 出席委員 10 名

山本渉（湖西市健康福祉部長）、伊藤健（湖西市医会会長）、落合修（静岡県西部保健所代表）、竹島清一（湖西市自治会連合会会長）、田内清之（湖西市老人クラブ連合会会長）、鈴木美由紀（湖西市地域包括支援センター代表）、田内浩之（静岡県議会議員）、山岡輝之（公認会計士）、石川雅俊（厚生労働省医政局職員）、山田朝夫（財団新和会八千代病院職員）

事務局 寺田肇（湖西市病院事業管理者兼院長）、柴田佳秀（事務長）、松本和彦（管理課長）、菅沼由孝（医事課長）、松本圭史（管理課課長代理）

○開会

○湖西市病院事業管理者あいさつ（略）

○湖西市長あいさつ（略）

○委員紹介

○議題

- (1) 現在の市立湖西病院改革プラン（平成 26 年 3 月策定）の説明
- (2) 総務省による「新公立病院改革ガイドライン（平成 27 年 3 月策定）」の説明
- (3) 静岡県地域医療構想・西部構想区域（平成 28 年 3 月策定）の説明

○各委員の意見

○地域包括ケア病棟の検討が必要だと思う。検証してみてもどうか

○この地域で果たしていく機能・役割を明確にしていくべき。

各形態でのシミュレーションがあれば議論できる。

また、DPC も行っていない。

総合診療を提供していくのかなど、機能分担をはっきりさせていくことが重要

○市民にはこれらの話は、専門用語でわからない。市民にとってこの病院のイメージや何を期待しているか伺いたい。

○病院の役割を求めているが、市民がどれくらいの事を望んでいるのか。

○検査や診察は浜松へ行くことが多い。産科のお産ができる場所はやはり地域にほしいという女性からの意見が多い

○市民は、病院経営にはお金がかかるから民間へというが、核家族化が進み高齢者が病院に行きたくても家族が連れて行ってくれない人もいる。

○税金はかかるが、市が病院長中心に管理していった方が良い。

○病院は市民で育てていかないといけない。事故のときの整形や出産のできる産科の充実が必要。高齢者には病院が近くにないと困ります。

- 地域医療構想は県レベルで行っている。出先の保健所では実態把握を行っています。
- 在宅医療については、人口の多い地域はできるが、近年老々世帯や単独世帯では車に乗らない高齢者が多くなっている。訪問診療や在宅医療はチームを組まなければならない。訪問診療の24時間体制は難しい。在宅医療は医師会、訪問看護センター、職員の処遇など改善が必要。今やっと動き出したところである。
- 地域医療構想において、湖西市は県境にあるので、流出流入はどのように考えているか。救急や通院で県外に流出することも考えられる。県外からの流入はあるか。湖西市はどうですか？ 調査が必要。
- 病院も年数がたち病院建て替えは？また、立て替えの位置づけをするのか？
- 介護の立場で言えば、認知症の診断は浜松市内の病院へ行くことが多い。湖西市には精神科の専門医がいない。高齢者は公共交通機関の乗り継ぎやタクシーの利用も費用がかかり行きたいけど行けない。
- 回復期病棟もあってもと思うがどうか
- 市民にアンケートなどを行うことも必要だと考える。
- 介護について地域包括ケアシステムは病院だけではできない。協力して在宅を目指す。市と連携していくことが重要。機能分化の点でも特徴を持ち、強みを持つことが必要。更に病病連携を強めていく。
- 湖西病院を市民がどうとらえているか。現状ニーズについても必要ではないか。検診やドックは、市内企業は強制的にしてはと考える。
- 私は、別の市で市民とのワークショップを実施した。希望や要望は聞くが、状況を説明することによって理解してもらおう。実施するのは大変だかやったほうがよい。
- 国保や後期高齢は、市担当からニーズのデータをもらうことができる。これで西部地域の動向や存在意義が分析でき市民にも役に立つ。患者がどこの病院に行っているのかマーケットの分析もできると思う。

○院長 高度急性期は流入流出を考えるが、急性期・回復期・慢性期では流出流入は考えない。市立湖西病院の役割は、予防医学。会社、市、検診、福祉、保健、特養への医師派遣の後方支援。急性期の1.5次病院として365日救急を担っている。当院は、急性期の役割であり、従来の総合病院の概念でやっている。

○閉会